

911.32
才
下

皇初道荏菴抄

下



ルベシ碑面ニ四方國界ノ里數  
ヲ勒ス猶附録ノ圖ニ見ルベシ  
此城神龜元年按

察使鎮守府將軍大野朝臣長東人之所置也

天平寶字六年參議東海東山節度使同將

軍惠美朝臣獨修造而十二月朔日と有  
此數字ハ

乃碑文ヲ抽出シタルモノニテ府ハ府ノ誤、所里ハ所  
置ノ誤、獨ハ獨ノ誤、ニテ且朝ノ字ヲ脱ス惠美朝臣ノ

名ハ朝獨ナリ猶附  
錄ノ碑面ニ委シ  
聖武皇帝の遺子あり

聖武ハ反正帝ノ皇子ノ皇子ノ帝ナリ  
皇帝ノ號ハ中華ニテ秦始皇ヨリ起ル  
義ヲ取ト云

川為了乃あつたるり石ハ埋て去よのら木ハ

老くみ木ふかりせむ  
古文前集李白蜀道難詩地  
崩山摧壯士死文選古詩古

墓犂為田松栢推為新ト  
是等ノ風情ナルベシ  
子歳の紀念今ノ暇あよ

古人の心と覚す  
記念ハ俗ニカタミト訓ズヨク心  
ニトミリテ念ヌヲ云ベシ  
聞ハ字

書ニ歷觀也トアリ  
見メグラスコナリ  
川流の一は存常は修ひ羈

旅乃乃方とワす  
行脚羈旅ノ解ハ皆前ニ記ス存  
ハ見在ニテ存命トハイマダ命ノ

アルト云意ナリ羈旅乃方とワす  
てハ詩所樂自忘疲ト云サマナリ

別長  
る川より野田の玉川沖の石とる思  
野田は玉川ハ  
本名との玉川

のちわく名あり  
沖の石ハ末乃雲山のちふ小あり  
義未  
亦忘らざる

ひまをくぬ沖の石の人  
沖の石ハ末乃雲山のちふ小あり  
義未  
亦忘らざる

一漢波のちハ末乃雲山のちふ小あり  
末の石ハ末乃雲山のちふ小あり  
義未  
亦忘らざる

さうく末松山とつふ中 畧とぬとのハ一 枝とつゝぬ。

契乃末也 末の末のハ系葉を垂り 思ふまじくはしつゝ心とつのも

也ハ末のつ川山波もあしるんとつあざとさう

とハと春原元補の詠る名所へ取置抄小万系共を詠して

云のづゝんとハ北心也 思ふまじくはしつゝ心とつあざとさう

す人おさつ山波もあしるんとつあざとさう

いとさうかの山波乃とさんせいしつゝ心とつあざとさう

神奈くあやとつゝ心とつあざとさう

云し彼はよはとつゝ心とつあざとさう

と詠るのづのれもさうまき派のわ乃山のつゝ心とつあざとさう

ゆんちるとあるるくもあやとさう

えんまはあしつゝ心とつあざとさう

つ川山とつゝ心とつあざとさう

ととぬとのハ一 枝とつゝ心とつあざとさう

比翼鳥在地願為連理枝ト云句ヨリ出タル故事ニテ

比翼鳥ハ爾雅云南方有比翼鳥焉不比不飛其名謂之

鵽鵽郭璞註似鳧青赤色一翼相得乃飛ト連理

枝ハ山海經ニ見タリ兩枝條理連比相生者也ト云

づゝ心の浦に入わ乃のねとゆ 地づゝ心のハ一 枝とつゝ心とつあざとさう

ありて千笑は極電と云あやとさう

とらうのくわはつ川くハあしと地づゝ心の浦こくハあしと地づゝ心の浦こく

いさづの唱もろど道一 あしと地づゝ心の浦こくハあしと地づゝ心の浦こく

あしと地づゝ心の浦こくハあしと地づゝ心の浦こく

あしと地づゝ心の浦こくハあしと地づゝ心の浦こく

あしと地づゝ心の浦こくハあしと地づゝ心の浦こく

あしと地づゝ心の浦こくハあしと地づゝ心の浦こく

あしと地づゝ心の浦こくハあしと地づゝ心の浦こく

あしと地づゝ心の浦こくハあしと地づゝ心の浦こく

あしと地づゝ心の浦こくハあしと地づゝ心の浦こく

あしと地づゝ心の浦こくハあしと地づゝ心の浦こく

あしと地づゝ心の浦こくハあしと地づゝ心の浦こく

あしと地づゝ心の浦こくハあしと地づゝ心の浦こく

あしと地づゝ心の浦こくハあしと地づゝ心の浦こく



ヲ假ナリ 奥よりとら今依乃仙を神酒福とつものあくま  
く我独賣州ありけりあやと作りく福とく上よりハ我後秀  
去云の侍女阿通と云々の牛若丸や二列矢他乃長が娘御梅  
娘とのりど輪く書とふ一十二段と名づく後京原小御  
検校津角持孫と云二人の替者ありと云十二段と名づく  
うへに始に終りあり一と淨瑠璃名ありと云平家ハ平家物  
ゆいゆいと云信濃あ日乃長との作めし生仏と云替者我後  
合始事なる後然あやアアと云ハは是れある一と舞と流小  
このまゝハ信言飯後杯あやと云名あり我おは孝若代と書  
門もると華あま屋臺頭の二流と云と云むむびハ都乃まの  
いふの免れ 是古の遠風志述ざれものうと 村務  
あれり  
よそ  
遠風ハ風茂其のころと云うハ俗流乃のころ  
と云め一 村務ハコトニスグルト訓ズ 涅槃經  
諸善法最爲殊勝ト云リ但日本  
ノ俗話ニ用ルハヤサニキ意也 早稲地乃のの  
よ 須國守非興きりて言むふとく杉搦

まじひるのよ石の階九何小室り

塩ツルゆ卵ハ別也  
あゆがぬの浦子ま

祭神味耜高彥根命當國一宮也相傳當社明神始テ鹽  
ヲ制スルヲ教玉フト國守ハ仙臺侯ナリまむぬ  
一ハ中臣被下津磐根 仁宮柱太敷立トアリ 彩椽ハ  
イロドルタルキト訓ズタルキタル 何レモ宮社ノ莊嚴ヲ稱  
ズルナリ何ハ八尺ヲ云サレハ九何ハ汎ク高  
キラ云フアリ尚書所謂爲山九何ノ類是ナリ 五石の

風俗を以て

風俗ハナラハセヲ云  
子夏詩序變風易俗

文治三年和泉

之の奇進

文治ハ後鳥羽院御宇ノ年號ナリ  
和泉三郎名ハ忠衡秀衡カ三男ニ

テ下ニ詳ナリ 此年秀衡 死スト云 渠ハ勇義忠孝の士也佳  
奇ハ寄ノ字ノ誤ナリ

名今よりありてまじはすといぬるゆか

勇義 忠孝

の士とて按むる小我独賣州よあふうち秀衡死すて  
トあゆめ婦人子孫戸次男伊達以成とゆて一層あ







陽運行萬物生息謂之造化下天土ハ俗ニ云片ハ天地自然ノ細土ト云ガ如シ但造化天土ノ文ハ或ハ賈誼鴟鳥賦云造化爲工萬物爲鹽ノ句ヨリ出ルカハ川邊の人の業とゆふ心切とありてハ三體詩孫毓句寒暄皆在素孤絶画難形ト云ガ如ク俗ノ手ニ及バヌト云フナリ

飛鳥の後の辰 **雲み** 禊師の室乃紅 禊師ハ志摩手甲のふん侍店ト同時代の人ト云侍説未詳

吾伊ののりハ下小兄ト云 **將** ねのあはしき世といふ人も 將ハ玉篇ニ或地ト云

鼻俗ノマアト云詞ニ當ルベシサレド和文ニテハ多ク且ノ字ノ意ニ用ル世といふ人ハ世捨人ヲ云但此二句ハ唐詩選無名女偶來松樹下高枕石頭眠ト云ル句意ヲ以テ見ベシ **虫**とてしむ

二所と伝々風雨の中ハ狂狂するともあや

しきるぐ妙なるつれハせしむる也 此段ハ詩軒窓爲月開ト云何

似山中臥白雲チド云風情ヲ得文章簡ニシテ盡セリト稱スベシ妙ハ奇妙ヲ云

松竹や ねのあはしき世といふ人も 松竹は とも

けのの趣向ハ古きありと 是れ也今失ふあり

素直を ねのあはしき世といふ人も

和分と ねのあはしき世といふ人も 素直を とも

口氏 一説は能世もねと同じなり ねのあはしき世といふ人も 堂といふは社名の信友あり 又とて考出バをと云ハ社名の口人あり 亦半邊ハ器と業ト云テ東云深川は信す人あり是も社名の友あり ともよらね木をねといひ縣令乃少美とつと先く死ハ其子もたを死といふも父は先立死といふ今ハ社名一折風といふハもとて先く死といふも社名のつと先く死

十一日 瑞岩寺子 宿 中 生 宿 岩 寺 子 宿 中 生 宿 岩 寺 子 宿

中畧 寺子雲名祥少の治化も亦く七堂並あり

了金聖莊嚴丈と輝仁古成能乃大伽藍

ハるりりり多れ彼見佛聖ヒレリのちいづくやと云

り。 瑞岩寺と松崎の瑞岩寺なる寺に雲居禪師住ス 壯年小く出家し名を法んと云入密して極山の佛燈

禪師子受法す云友人僧懶菴云瑞岩寺ハ圓福山ト

號ス開山法心和尚ハ常州真壁郡ノ人故ニ俗名ヲ真

壁平四郎ト云少時仕官ス一旦過アリシニ主人沐展

ヲ以テ平四郎ヲ擊平四郎大ニ恚怒シ其木屐ノ缺夕

ルヲ抱テ走出遂ニ僧トナル其後ニ至テモ猶此木屐

ノ缺ヲ錦袋ニ入頸ニ掛テ動止コレヲ放タズ人其故

ヲ問ニ曰是我師也ト終ニ宋ニ入テ臨濟宗ヲ傳歸朝

シテ瑞岩寺ヲ開此寺今曹洞宗ト成其時偈云一住徑山弄風光歸

來坐圓福道場法心覺了無一物本是真壁平四郎ト德

化ハ孟子德化盈紛敷玉篇德惠也化教化也ト云メク

ミヲシユルヲナリ七堂ハ講堂山門鐘樓鼓樓庫裏浴

室廁ノ七ヲ云又異説 夢ハ字彙ニ屋棟也ト云金壁ハ壁

ヲ金張附ニシタルヲ云但此壁ハ或ハ碧ノ字ノ誤カ碧ハルリ也ニテ

也ト云伽藍ハ釋氏要覽云僧伽羅摩此云衆園圓機活

法云梵語題云僧伽藍摩或云僧伽羅摩此云衆園圓者

生植之所佛弟子居之取生植道本聖果之義也五分律

云餅沙土施迎蘭陀竹園為始也按ズルニ上ノ説ニ依テハ伽藍

又上下畧シテ伽藍ト見佛聖ハ元亨釋書云釋見佛居奥州松

嶋其地東溟之濱小嶼十百數其尤者曰千松嶋佛結苑

而居精勤苦練十二年其間誦法華滿六萬部其後不

計數屢顯靈應天仁帝聞道譽賜佛像寶器而旌異之依

茲土人改千松曰御嶋今ノ雄年八十二寂列長

十二百平知あるとつぎー何ぬくのねたごえの信

ふとつて傳く中經危葛其茂の性うのみち中石乃

出るといふ清ら心

平和泉ハ秀樹居位の地とて今走湯村  
況乃社あり秀衡の祖父清衡は志を記

あらと云云或ち云云乎和泉者銘とて金皇高院乃少中ふらび  
て西市戸小ハ秀樹の嫡子也其の固衛の意也河内ニ男忠剛  
が居る泉屋志志也又金皇高院於東ナリ加藤宗とク名  
付ケ亭宛也家秀衡と云ハ其位すと云  
阿の人の妻ハ伊勢お知子なり乃乃あ孫との中川人なりハ  
初のはと云云といハヤ一と云云ハ之れ後乃橋と又  
と云ハ其後一在丸本橋と云云後世并ハ玉の如く之乃橋の名  
もつゝ一々付て居れ神の如くハ小宮と云ハ一各各  
唯免芻芻ノ芻ハ芻ノ俗字ナリ孟子曰文王之圃方七  
十里芻芻者往焉雉免者往焉趙岐註芻芻者取芻薪之  
賤人也雉免者獵人取雉免者也ト云リ此ニ雉免芻芻ノ  
行カフ道トハ言ハ唯草カリ木コリ獵人ナドノ往來  
スル野道山道等ニテ正キ往還スゲニアラザルヲ云  
石の邊ハ松等乃東北八里と云ハ正キ往還スゲニアラザルヲ云  
湊ノ字ノ誤ニテ湊ハ正字通水會也ト註ス海邊ノ  
人ノ多ク聚ル處ヲ云故ニ今俗海船港口ノ名トス

うねふ咲とよみてせしるる金花山中電光地燈とつ

あづのふささくともくくくハ万葉すくくくハ記の神代は  
かんといふの邊ありみちのく山よと云云

なるといふ此ふとあり禁座へさし上りて之を山と  
仙臺の印石乃乃方子常義乃程十三里と云ハ神才と  
也蓋す日本ニ神代天孫と云々大令と云ハつて山  
名被をとり砂金あり聖武天皇御の御宇小此山より初  
令成献は是と東大寺盧舍那佛乃偽代ト云ハ續日本紀  
聖武天皇天平二十一年陞奥小田郡貢黄金と云也  
孫持の言ハ此禁の地ハ海部ハ砂金を産す云々  
又ハ神代金皇高院と稱して名産と云ハ老婦云々  
たりと云仁治乙金皇の御代也  
小川民の御代ハおきつひと云々中華ニテ  
モ人家ノコニア立ツバ  
キタルヲ人烟稠ナド云リ  
神のつり尾ぬちの牧字  
のうき原るる中戸伊ナと云ハ一帯と云  
神のり  
より尾

ゆらちの敷とらね... 乃未<sup>新抄</sup>之... 止<sup>新抄</sup>乃<sup>新抄</sup>... くら<sup>新抄</sup>... 十六<sup>新抄</sup>...  
ゆらちの敷とらね... 乃未<sup>新抄</sup>之... 止<sup>新抄</sup>乃<sup>新抄</sup>... くら<sup>新抄</sup>... 十六<sup>新抄</sup>...

三代乃茶魁一燈の中... 中秀衡の

乃と田路を成<sup>成</sup>了金鷄山の... 三代ハ清衡基衡秀衡ヲ云清衡ガ父ハ俵藤太秀郷ホ  
代ノ後胤<sup>且</sup>理權木夫經清トテ安倍貞任ガ妹尊ナリ  
前九年ノ合戦ニ經清貞任ニ屬シテ戦死ス賴義經清  
ガ寡婦ニ二歳ノ男子ヲ添テ武則ニ賜リ妾トス此男  
子ハ乃清衡ナリ其後武則ガ實子武衡家衡叛逆ス清  
衡一人義家ニ屬シテ戦功アリ是ニ依テ奥州靜謐ノ  
後伊澤加賀江刺綴枝志波岩手ノ六郡ヲ賜リテ清衡  
基衡秀衡三代ユレヲ領シタリト云一燈の中

中華ニテ富貴ヲ願タル旅人ニ呂洞賓ガ一ツノ枕ヲ與  
テ眠ニ著シム旅人夢ニ帝王トナリテ歡樂ヲ極シニ  
忽<sup>ト</sup>太子ヲ失ヒ后妃ニ別悲ニ沈ト見テ夢サメ又其眠  
タルヲ纒ニ粟飯ヲ炊間ナリト沈既濟枕中記ニ見  
タリ是ヲ俗ニ邯鄲枕ト云秀衡ガ居蹟ハ前ニ見タリ  
因<sup>モ</sup>枕<sup>ノ</sup>夢<sup>ノ</sup>文<sup>ニ</sup>選<sup>古</sup>詩<sup>ニ</sup>古<sup>墓</sup>犂<sup>爲</sup>田<sup>松</sup>栢<sup>権</sup>爲<sup>新</sup>ト云  
ル形容ナルベシ金雞山ハ秀衡建立ノ伽藍地ナリ或  
書ニ云當國ノ中心山ノ頂ニ一ツノ墓塔ヲ建寺院ノ中  
央ニ多寶寺アリ其中間ニ路ヲ開キ往還ノ便トス次  
ニ釋迦堂兩界堂兩部ノ諸尊ハ皆金名ナリニ階大堂  
ハ高五丈三尊ノ彌陀ヲ安置ス金名堂ハ内殿皆金名  
ナリト云乃<sup>金雞山</sup>○<sup>撫</sup>之<sup>ト</sup>一<sup>版</sup>ハ<sup>是</sup>ニ<sup>代</sup>の<sup>後</sup>と<sup>述</sup>ん  
の<sup>有</sup>ク又<sup>傳</sup>と<sup>更</sup>ア<sup>て</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>く</sup>記<sup>乃</sup>柳<sup>乎</sup>字<sup>す</sup>され<sup>ど</sup>記<sup>せ</sup>  
徳<sup>ヲ</sup>努<sup>進</sup>た<sup>を</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>事</sup>の<sup>故</sup>より<sup>な</sup>又<sup>努</sup>む<sup>る</sup>こ<sup>の</sup>程<sup>一</sup>教<sup>不</sup>  
其<sup>指</sup>押<sup>と</sup>熟<sup>考</sup>す<sup>は</sup>なり

山人<sup>の</sup>傳<sup>ふ</sup>の<sup>が</sup>川<sup>上</sup>川<sup>南</sup>部<sup>より</sup>流<sup>る</sup>

大坂也衣川を和泉の城と免ぐり中

衣川を和泉の城と免ぐり中

乃跡を小杉と括く昔と遺に近きは此地は祖の禊を建

夏もあやむ程無と括く昔と遺に近きは此地は祖の禊を建

南郊に粟川のうちあやむ程無と括く昔と遺に近きは此地は祖の禊を建

衣川ハ野井部衣部野井部とある古伝ありき 其のあやむ

ありては名取のやあやむ程無と括く昔と遺に近きは此地は祖の禊を建

我死を... 衣川の次男伊達次郎とある古伝ありき 其のあやむ

志よる... 義経追討ノ一 或説ニ云秀衡病テ將ニ

死ニトスル片竊ニ三子ニ遺言シテ云鎌倉將軍ハ人

トナリ頼シゲナレ當義経ヲハシ且我所領ヲモ奪ン

ノ志アリト見ユ然レ我レカク存命テ在故ニイニダ手

ヲ出テアタハス我死セバ必鎌倉ヨリ義経ヲ討ベシ左

アラバ汝等ガ身モ亦危カルベシ所詮我死後ニ至リ

國衛康衡ハ義経ニ從テ權ニ是ヲ拒ギ義経及ビ義経

ノ近臣ノ功アル者ヲ皆鰥夷ヘ奔ラシムベシト囑付

テ秀衡死又果テ幾許モナク鎌倉ヨリ義経追伐ノ聞

アリ是ニ於テ三子ヨク父ノ遺命ヲ守リ國衛康衡ハ

高節ヲ攻忠衡ハ義経ニ代自殺シテ焼死シ人ヲシテ

其形ヲ知メズ近臣龜井片岡辨慶カ徒ヲモ亦各人ヲ

代テ戰死セシメ義経ヲバ近臣ト俱ニ鰥夷ヘ送ル其

後國衛康衡兄弟モ亦終ニ頼朝ノ爲ニハサレ義経ヲ

鰥夷ニテハギクルミト云後ニ義経中華ヘ渡リ名ヲ

義行ト更メ仕テ列侯トナリ義行王ト稱スト云リ按

ルニ鰥夷志云鰥夷俗尤敬神而不設祠壇其飲食所祭

者源廷尉義経也東部有廷尉居止之墟土人最好勇夷

中皆良之夷俗凡飲食乃祝之曰オキクルふ問之則曰判官判官蓋所謂オキグルふ夷中所稱廷尉之言也又云西部地名亦有辨慶崎者或傳廷尉去此而踰北海云又東都俳士玄武房予ニ語テ云今ノ中華ハ韃鞨人ノ治ニテ世ヲ清ト云其先ハ義經ヲ祖トス故ニ世號モ亦清和源氏ノ清ヲ取ト乃清朝ニテ撰述セシ圖書木成ト云書ニ載スト聞又上按ヌルニ今清朝王城下戸戸義經ノ画像ヲ門柱ニ粘リ鰻夷志ニ見テ玄武房ノ談ト符合義經高館ニ死セズ鰻夷ヲ經テ中華ニ渡ルルハ實ニシテ明ナリ

功名一村の叢とある國破生るの山に城

まきりくろあまきりくろと  
功名ハ老子功成名遂而身退天之道ト

云語ヨリ出タリ叢ハ玉篇草生貌トス此文ハ詩功名土一丘ト云意ナリ國破生るの山あり傳事ハ一々クありありと杜甫春望詩國破山河在城春草木深ノ句ヲ取テまきりくろと換骨とす○按ルニ此段ハ文

選古詩去者日以疎生者日以親出郭門直視但見丘與墳古墓犁為田松柏摧為薪白楊多悲風蕭蕭愁殺人思還故里間欲歸道無因ト云モノト暗ニ頷頷スルガ如シ文ヲ嗜ム者ヨクク心ヲ付ベシ

徑堂ハ之將の像と此一先堂ハ之代乃根伐

約免之等の佛と安道す中七変あふとく

中 畧院ノ頼慶そ虚の叢とあふは徑堂

落山のものとあふるなり徑堂ハあり徑堂ハ終極の堂也界外者の云これ先堂ハ金堂と云ふと云ふ之代ハ清衛奉謝秀樹あり之等の佛と安道すとい前ハ大堂破壊して路をわきと先堂なるものあり一後ハまきりくろと云ふ一源氏一統志ハ云清衛之等の像と運交小作クあふとくとあふすのありる像ハ法苑珠林玉法入れば是甲本ハ玉服を履ありと七寶ハ法苑珠林云長阿含經云一金輪寶二白象寶三紺馬寶四神珠寶五玉女寶六居士寶七主兵寶又或説ニ瑠璃玻瓈磚磔

瑪瑙珊瑚琥珀真珠ヲ七寶トス或ハ真珠ヲ除テ金銀  
 ヲ加ル説モアリ敬テ此兩説ハ或ハ類聚ノリ世カ類聚ハクツレヌタル  
 上訓ハ空虛ハ二字  
 庄ニムナシト訓テ

字名ノ雲水洞ノ小石流ノ川ノ小石流ニシテ  
 多岐ニシテ所ヨリ中關ノ里ニシテ封人ノ

地ニシテ金と水石名ノ里小石流洞ニシテ

今ニ本編ノ石ノ流ノ洞ノ秋乃由今家  
 母心本也トシテ記シテ一川ノ小石流ノ秋乃由  
 互ハ小石流ノ大石ノある地と云ある二の洞ハ今家  
 多ニ我地乃小の方京於君ノ龜破地トシテ記シテ一石名と

舟名ノ改メトシテ今ニシテ多岐ノ里ニシテ  
 陸心ニシテ記シテ一川ノ小石流ノ秋乃由  
 今ニ本編ノ石ノ流ノ洞ノ秋乃由  
 互ハ小石流ノ大石ノある地と云ある二の洞ハ  
 多ニ我地乃小の方京於君ノ龜破地トシテ記シテ一石名と  
 傳杜預註曲封疆者ト封ハサカヒト訓ス封人ハ境守  
 上云舍ハ左傳一宿曰舍ト一夜ト一リノナリ  
 究竟ハサカヒヲキクムト訓ス俗ノ  
 究竟ノ各者 至極ト云ニ同ジ天台ノ六即究竟  
 即ヲ以テ最上トス按ルニ今俗健ナルヲクツキヤク  
 上云然ハ屈強ノ字ヲ用ベシ屈強ハツヨキヲカバム  
 上訓ス不敵ノ意ニテ史記ニ高山強クシト一石  
 楊信鳥剛直屈強ト云是也  
 有リテ本ノ下関流ノ石ノ流ニシテ





あはれありお列の祓はるごとく東乃ぬまはと回原は是  
あやうく珍少や形はくも其角の海阿の附原は記は  
えしよのつひやの下のひいひの事

此のうら美草葉よ おろすここのひやのつ下よふくは  
丑ひつつありつらんともかこいふおりともく  
蛭をぬいの中川とやの物あよこせおとこいおは  
丑ひはくありは又半くつひやとこいおは物ふ  
云ふるあまお合お後集つもの刺も云因ともり人山  
田の庵小のあお一つひやりのうちよ煙とくくやとせ  
ふおぬを帯ふとも又麻をまじむとも云其下よな  
桂乃あまをすく熱とひとえたり又取賜ハ蛭以  
おまふ室を個をくはきり後成定家の説は叶す  
とあるをり今むれつは考ねおあまの万葉のあや  
おをぬのひやとははらう火屋を麻火屋ハ何まおお  
ふおくあやうすも乃まふまお符合もは且蛭を  
女のあ川うふよふく丑ひ男と桂小中と入阿一あま  
証とくぬく人目と丑ひおるるこはけり蛭と阿ま

とくたてうあまをれどこく個をともいおま  
情とおうけやうもく取取の説接はるる情しり  
りこより尾お涙のをハ蛭と多く個不る中ハ本  
説はうとも阿は此のうらぬす個をともはけり  
ぬありまぬかも蛭個のあらり  
是れおくまおおはくくぬく

中目ともさよと侍りてお粉の事

中目ともさよハおふ乃名卑儲るるをいとも云はざ  
こ乃程おありおあまや眉を記たりお婦人  
の化粧と掃髪具もく大女部小女部あまとも  
けふのつらちおしおしおらぬ名あまけり  
おお粉のむらぬ合  
せも亦けはあり

蛭 個をぬ人ハ古代のすくは

蛭と個をぬらららくくのおまらうく婦人  
蛭小油とぬさずるは鉄おとつけは蛭と

每懐也著て女の氏と云る一カとより聲  
細のよりハ神代と云るありては本紀に云く

山形領事立石寺と云ふ山形領事慈覺大師

の心也奉もて神法宗乃地之 山形は最上郡の横下を  
町の東に二里をのりあり

今最上郡と云ふ山形の事をいふは佐々木氏の傳に云く  
村山郡最上川の末乃山あり其の里に山形村と云ふ  
あり立石寺ハあり石と領して武列の東に山形は  
大佛入定此地と云ふ山形にありては多き山形の奇  
石ありて佐々木乃地也と云ふ慈覺大師ハ名と圓仁と云元  
亨釋書云釋圓仁姓壬生氏野之下州都賀郡人延曆十  
三年生焉九歲而事同郡太慈寺僧廣智年十五師傳教  
年二十三於和州東太寺受具足戒承和五年從遣唐使  
藤常嗣入唐十四年歸朝仁壽四年四月任山形座主貞  
觀六年正月十四日寂年七十二八年賜諡慈覺大師○  
山寺ノ里民相傳慈覺大師ノ手ニ惡理アリ俗ニ弓箭世  
人云是脈理アル者ハ必刃傷ノ難ニ遭ト故ヲ以テ大

師常ニユレヲ畏慎玉ヲ果シテ立石寺ニ入定ノ後  
山ト葬處ノ乘起リ獻山ヨリ衆徒凡來リ終ニ大師ノ

頸ヲ斬テ獻山 栢ハ栢ノ俗字ニテカレワト  
へ持歸ルト云 栢栢子為 訓スルハ尤誤ナリ  
リ栢下ニシテ也 中華ノ栢ハ種

類多シ本草綱目ニ詳ナリ日本ニテハ栢ノ云テハ  
ラフノ木ナリ云テハハアスナ  
說ニ栢ノ字ヲ又カヤト訓スルハ誤ナリカヤト訓ス

ベシ乃栢ノ和訓也カヤ又木ノ略ニテ此木ハ秋ニ至テモ色ヲ  
易ガル故也カヤハカヤリ木ノ略ニテ椎ノ字ヲ用ユ

此木ヲ數ヤリト 栢と先づり  
スル故ナリト云 栢と先づり

おー佳系 栢栢子為 栢栢子為  
とハ後因者此山子孫因多と云ふ事あり岩壁に

トを傳テテ今栢栢子為と云ふ事あり栢栢子の事あり  
繼る胎内なりと云ふ事あり栢栢子の事あり栢栢子の事あり  
此栢栢子の事あり栢栢子の事あり栢栢子の事あり栢栢子の事あり





阿闍梨ハ釋氏要覽云寄歸傳ニ  
或ハ呂九  
 曰阿遮梨那唐言軌範資糧論曰阿遮梨夜隨言正行社  
 中僧車來云阿闍梨ハ具ニハ都法大阿闍梨ト云天台  
 真言兩宗ニ限ル三部ノ密教相承ノ師名ナリト謁ハ  
 玉篇告也也又請見也ト云申入テ對面スルヲナリ  
 南谷ハ羽黑山中ニアル谷ノ名北谷中谷南谷ナド云  
 テ坊舎ノアル處ナリ憐愍ハ二字ニアワ  
 シムト訓ズ涅槃經憐愍一切衆生ト云リ

有部や高とつゆす南子

此句を以てハ下モ字の者とあり好ぶ者も改む  
 兼風自南來る云云乃と云くこのハ及多ヤ  
 されしやうだーはくくも  
 有仙ありつゆす南子

五別は權現の諸當山関關能除大師ハいつまの代乃

人ともあはれず近を式お別列里山の神社と有

中鳥の毛羽と此國は貢と敬と風云記子傳

とん羽黑山ハ祭神倉稻魂命推古天皇元年當國

行者開之ト云延喜式ハ五十卷アリ律令ノ書ニテ延  
 喜年中右大臣忠平勅ヲ奉テコレヲ撰ズ風土記ハ諸  
 國ノ土地人民産物等ノヲ記ス書ナリ和銅年中令  
 撰諸國風土記ト云今モ此國ヨリ鷲羽ナトヲ多ク出

月山乃魚と合々之山とす當寺茂江東齋

廣して天名止親の月明らるる圓形融通

乃法其灯のりりりり中靈山天塊の驗効

人貴且焉月山ハ羽黑山湯殿山ノ峯ナリ乃羽黑

湯殿山ハ大日ノ靈場ニテ開基役行者ト云未詳但月  
 山西ノ中腹在內ノ方ナルハ羽黑山東ノ中腹寂上ノ

方ナルハ湯殿山ナリ故ニ此山三山一體ト云成江東  
敵ハ武列江戶は东敵ハとシあるて天台止観トハ止観ハ  
観法ノ一ニテ天台一家ノ旨トスル所ニ大部中ニモ  
摩訶止観アリ三大部三十卷ハ法華經ノ注解ニテ玄義十卷ハ題号ヲ  
釋ニ文句十卷ハ經又ヲ解ニ摩訶止観十卷ハ觀法ヲ述圓  
頓ハ八教中ノ圓教頓教ヲ云是亦天台一宗ノ尚所融  
通ハ二字氏ニトラルト訓ス此ヨリ彼ニ通ジ彼ヨリ  
此ニ通ズルノ義圓教頓教互ニ通達スルヲ云成の灯  
トハ燈ハ光輝アリテイツマテモ傳ルモノ故ニ佛法  
ノ明ニ世世傳リテ滅セザルヲ喻フ詩ニモ一點燈光  
續續傳ト云リ禪書ニモ傳燈錄ノ名アリ靈山ハ天竺  
靈鷲山ヲ云釋尊說法ノ地ナリ驗効ハ皆  
シルシト訓ズ俗ニケンノ有ト云フナリ

本條志先方よりうけ寶冠は既と包張成と  
いふものよりむの事そ中り行さ乃中  
入るとある事ハ中ハ深く月破る  
月い湯殿山  
ハ際齋師にセ

ざりハある事ハあゆまめハ孤獨コロクまてあつた修持家にあるハ人  
際齋中より下ハ中ハ是と拂子樹るハあゆまめ及ぶ修持家  
差ると後ハあゆまめハ人恒然坊ハ傳りてその子孫列傳ハあゆまめ  
馬屋ノ山の子孫ハ因園増位山宗風隆盛と述立一此洞及並ハ恒  
然坊の住持ハあゆまめ本條とゆひ宝冠ハあゆまめ及ぶ修持家  
云強カハ恒然坊乃才子及あゆまめ負まて後ハあゆまめ及ぶ修持家  
内定進めんとあゆまめ亦先達とあゆまめ及ぶ修持家の事ハあゆまめ及ぶ修持家  
平步入雲霄と云あゆまめ及ぶ修持家の事ハあゆまめ及ぶ修持家  
小雲開ハ道源の説ハ天上六關とあゆまめ及ぶ修持家の事ハあゆまめ及ぶ修持家  
ヲツル氏ニツム氏訓ズ日没ハ日ノ入一ニテ佛家ノ  
六時ニ日没時  
アリ晚暮ヲ云

谷の傍ハ恒治少屋とあゆまめ及ぶ修持家の事ハあゆまめ及ぶ修持家  
澤とのや干將莫耶乃むの事ハあゆまめ及ぶ修持家の事ハあゆまめ及ぶ修持家  
流の物ある事ハあゆまめ及ぶ修持家の事ハあゆまめ及ぶ修持家  
三ッ  
ニ  
右ニテタンヤ

ト讀へし和俗瑣治ノ字ト混ジテ其音ヲ纏ナリ月山ノ鍛冶小屋ハ今其業ヲナス者ナク唯名ノ遺リテ道者ノ舎トナルノ此名ノ剣と倅とハ史記荀卿傳注晉太康地理記云汝南西平縣有龍淵水可用淬刀劍トアリ淬ハ俗ニ云水ギタヒノコナリ干將莫耶ハ古鍛冶ノ名工ノ名吳越春秋云干將吳人也與歐冶子同師闔閭使造二劍一曰干將二曰莫耶莫耶者干將之妻也金鐵未流于將夫妻乃斷髮剪指投於爐中乃濡遂烏劍陽干將作龜文陰莫耶作繆理干將匿其陽出陰以獻闔閭太平廣記云干將莫耶劍皆以銅鑄之非鐵也ト云俗ノ上手ト云巧者ト云カ如シ執ハ執心ナリ 炎乙

の梅をる夏よのゆきのの〜  
はくは必本文の所 行する  
あまが〜未考

傳云のふ乃ふもま〜  
行尊ハ元亨釋書云諫議大夫

源基平之子也年十二投三井明行出家性好頭陀十七潛出園城涉跋名山靈區永久四年補園城長吏保安四年

年任延曆寺座主長承三年勅爲衆僧上座ト僧正ハ日本ノ僧爵ナリ行禪ヨ則知ル云のふとハ今其業ヲナス大徳也あまが〜未考

中の微細切者の法式〜  
微細トハ微ハ玉篇細也不明也ト云目ニモ見ヌホドノ至テコマカナルヲ云法式ハ法度式自ナリ

湯敷山勢多むさしの洞の風

此山中於法多〜地一層也其とものを多〜  
あり及者乃投擲〜金銀ハ小石の〜  
砂小石〜人  
ま〜と性来也

ねとま〜の辰  
勢の思乃株下長山氏重好と云とのぬのふり  
むろ〜ハ〜誹謗一書あり  
は能修附 中 果 測 廣 石 玉  
派ありす





うんく餅あどの生むれれのいぬれどうもぐけゆるあり  
けちのる  
と名付りたりと云々此の體を  
と異様  
正字とすに我下下詳あり 江中の名をさねゆよと云々くあらずし  
いどもみとおりのりやとすく棹と申の體と云るるをい  
又一段のいどもりこい西も大船と云るるのいどもり  
乃みものいどもりいどもり日と回すいどもりいどもり  
一寸四方ヲ云醫書ニ方寸也 假テ此ニ少ノ義ニ用ユスコレト 史  
記鄒陽傳願借玉階方寸之地ト云ニ體詩楚國千里遠  
孰知方寸遠ト云類ニテ多ク土地ナドヲ度量スルニ  
用ユ責ハ垂ト云意ニテ今象瀉よりすといふと云々ハ  
ちうくの流路りもやれ先象瀉をりおちると云々  
雨猿

脚〜〜〜海の山のく〜閣中は莫化〜〜

も又奇也〜〜ば雨子の勝〜〜又乳母あ〜〜

の管を猿〜〜といふ〜  
取猿然〜〜詩樓閣朦朧細

活法日妹明也ト云物ノヲボロニ見ルトナリ鳥海山

モ由利郡乃象瀉ノ上ノ山ニテ高月山ト韻頡ス四時

雪アリ祭神羽黒山ニ同じ大物忌太神ト稱ス當國ノ  
一宮ナリ園中ハ英化〜〜ハ按ルニ莫作ハ摹捺ノ誤ナ  
ルベシ通ジテ摹世説新語補暗中摹索亦可識トアリ卑俗  
ノクラガリニテサグツテ見テモ知ルト云トナリ此  
ニテハ唯閣中ニ坐シテソコラアタリノ知カヌル形  
容ト見レシ而も又奇也と云はるは乃勝又也のり〜ハ  
東坡西湖詩水光瀲灩晴偏好山色空濛雨又奇欲把西  
湖比西子淡粧濃抹也相宜ト此詩ヲ取ルナリ此詩ハ  
是本朝ニテハ必象瀉ノ形容ナルベシ故ニ祖翁モ亦  
象瀉眺望ノ吟ニ西施ガ睡ル容ヲ云ントテ先僅其意  
ヲ起ス是漢文ニモ貴所ニテ文書ニモ此法アリ亦吾  
翁ノ文ニ奇中ノ妙ナルモノナリ翁の管を小猿と入  
く〜ハ少翁の管をい〜ハ〜  
夷國名ニテ蚤蠻ト云常ニ船ニ居海物ヲ取テ世業ト  
ス故ニ日本ニテ蚤ノ字ヲ海人ノ通稱ニ用ユ固象瀉  
ニ蚤ノ管屋ヲ詠ル歌多シ世の中ハの〜〜  
のちのち乃管やとわ〜〜  
きさかしや〜〜

昔はのちの事なりとぬるむらび浦風をこゝの鳥鳴けりとの歌之録を之  
のころハ陶潜歸去來辭審容藤之易安ト云文ヲ取也

ふゆふゆととととと

神功皇后ト云の事候も子に於てまよふ  
とくさふり能因画君の事と上よるや

ふゆふゆととととと

ふの上こぐととととと 梅乃老本約

乃法師乃記念との事

ふの上こぐととととと 梅乃老本約

又水西(さき)せくゆり古本ハ枯く今ハ本ありありの事  
ふゆふゆととととと 梅乃老本約  
西行ハ和漢三才圖會云俗名佐藤兵衛尉藤原憲清秀  
卿九世孫武衛校尉藤原康清之子也達馬習管絃善  
和歌出於奥州奉仕鳥羽法皇爲北面衛士然有避世心  
遂出家號圓位後名西行建久四年二月十五日寂化云  
の事とあるはふゆふゆり ○家信一足の舟乃軍師内和二年中  
州水戸の事候云と云ふ佐土と家信(ま)りし時後一和久又心  
永代ちかよひと云ふ人沼く一又乃丹侯と云ふ長遠の柳の費  
ともすく風流生すをいぬ今ちかよひと云ふ一世の人と云ふ事

江上子江後河り神功皇后の御墓と

云とのと干満珠寺と云

神功皇后ハ人皇十四代  
仲哀天皇ノ妃應神天皇

ノ母君ニテ氣長足姫ト號ス干満珠寺ハ又干満寺ト  
云或ハ蚌滿寺ト書禪宗ニテ千體佛ヲ安置ス山門ナ  
ド有テ莊嚴巍巍タリ ○按ルニ此寺蚌瀉ノホトリニ  
在故二本蚌滿寺ト號シタルヲイツノ程ニカ干満ト  
書改終ニ好事者神功皇后ニ韓征伐ノ片ニ干満珠  
ノ兩顆ヲ齎玉ヘルヲ傳會レテ干満ノ下ニ珠ノ字  
ヲ加ヘ寺號トナシ或ハ此兩珠ヲ此地ニ埋玉フト云  
トアリ又皇后ノ御陵ヲモ造立シケルニヤ既ニコノ  
汝越川中ニ烏帽子岩ト云石アリテ蕉翁行脚ノ時ニ  
あしつはな鳥帽子と云ふあぬんふゆふゆととととと  
トガレ歌ノ詠アリシニ其後此石ヲ蚌滿寺ノ庭上へ  
移レテ親鸞上人ノ腰掛石ト名クト里人ノ談ヲ聞又  
其石今猶寺庭ニ存シ傍ニ栴シテ親鸞腰掛石ト  
云皇后ノ御陵モ亦或ハ此類ノ虚妄ナルベシ

のちのち小坐してと原と撰バ方丈ハ寺ノ勝手向キ

顯慶二年王玄策使西域至毗耶離城有維摩居士石室

以手板云ヲ縦横量之得十笏故僧堂名方丈室ト笏ハ日本

シヤク本ト一尺ヲ度トス日本ノ手板ヲ度トス十笏ハ一丈ナリ石

室ノ縦横一丈ツ、アリシ故ニ方丈ト云一丈十方ト云と

撰バトは王勃滕王閣詩朱簾

暮捲西山雨ト云ル形容ナリ 其陰ハ川ハと云

字のまじり

あはれを西ハちやくの深と詠ハちやく乃深

の冥と云ふと云ふと云ふ西ニテ云あり何處も云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

のちのち小坐してと原と撰バ方丈ハ寺ノ勝手向キ

顯慶二年王玄策使西域至毗耶離城有維摩居士石室

以手板云ヲ縦横量之得十笏故僧堂名方丈室ト笏ハ日本

シヤク本ト一尺ヲ度トス日本ノ手板ヲ度トス十笏ハ一丈ナリ石

室ノ縦横一丈ツ、アリシ故ニ方丈ト云一丈十方ト云と

撰バトは王勃滕王閣詩朱簾

暮捲西山雨ト云ル形容ナリ 其陰ハ川ハと云

字のまじり

あはれを西ハちやくの深と詠ハちやく乃深

の冥と云ふと云ふと云ふ西ニテ云あり何處も云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

けりおありがけ  
しやけり

### 汐波や橋けりぬまて海涼

汐波の自草今汐波町に友のりふのころ  
五ふの草橋をけりやとまふ川に流るる子  
ふりては海涼の地より橋乃たり  
ふりては海涼の地より橋乃たり

酒田の余波りと重て北津屋の重よ置余波のりふあ  
小まふん少津

是の自草試前加賀橋加賀の府ハ合津と云前の深ハ成好おれ成  
成中城坊佐渡の七ヶ島と云

深とこる川加賀の府ハ合津と云前の深ハ成好おれ成  
あり本原流ハ成好の地よりけり山のむき成

色とけり石の七島のうちハ皆流成條と云ひり節と成りつる  
おふけ多あり今の深はるふハ出物乃地より地まの深を流り雲と云

一ぢりお深山一ぢりハ一振と牛成後成中ノ後  
成好成好ハ一て田成好成好 暑温

### の芳は神とふや故一病おこりてふもとまふ

神ハ精神と云成なる因少く醫治の力をとて若き一てふや  
まふのふりや成はのまふを一其時のふりや成好おれ成り○は  
たな成好のふりや成り一や成りハ成好の病おこりてふもとまふ  
加賀の自草試前加賀橋一今成好の自草試前加賀橋より成好の  
玉ハ成好の自草試前加賀橋一今成好の自草試前加賀橋より成好の  
事と云る成好の自草試前加賀橋一今成好の自草試前加賀橋より成好の  
のりてふもとまふ一古成好の自草試前加賀橋一今成好の自草試前加賀橋より成好の  
成好の自草試前加賀橋一今成好の自草試前加賀橋より成好の  
けり成好の自草試前加賀橋一今成好の自草試前加賀橋より成好の  
や成好の自草試前加賀橋一今成好の自草試前加賀橋より成好の  
成好の自草試前加賀橋一今成好の自草試前加賀橋より成好の  
成好の自草試前加賀橋一今成好の自草試前加賀橋より成好の

### ふりや成りも業ノの成りハ成り

成好の自草試前加賀橋一今成好の自草試前加賀橋より成好の  
成好の自草試前加賀橋一今成好の自草試前加賀橋より成好の

荒海や佐渡よりこゝろあつた河

是も今町よりの野ありと云佐渡の野ハ今河を  
 ぬきて海に流るり海に二十里をるりぬきんぬ  
 とも海上より博志天河與海通詩銀  
 漢鵲橋横交りて月の影をるる小ハ天の川也  
 海にありて海をるるをいふは情と  
 けりしるるもあまのりともいふ也

今ハ親しき子とて大なりしつらむ

北園一の程を越へて親しき子とて大なりしつらむ

此世をこゝろのつらむと云一方を峻山とて其下は波打ぎハ世  
 末すあり浪のまゝ海に流るるつらむと云ハ世末すあり浪のま  
 づ波の初く方ワケのつらむと云一方を峻山とて其下は波打ぎハ世  
 末すあり浪のまゝ海に流るるつらむと云ハ世末すあり浪のま  
 らむと云ハ世末すあり浪のまゝ海に流るるつらむと云ハ世末  
 末すあり浪のまゝ海に流るるつらむと云ハ世末すあり浪のま  
 らむと云ハ世末すあり浪のまゝ海に流るるつらむと云ハ世末  
 末すあり浪のまゝ海に流るるつらむと云ハ世末すあり浪のま  
 らむと云ハ世末すあり浪のまゝ海に流るるつらむと云ハ世末  
 末すあり浪のまゝ海に流るるつらむと云ハ世末すあり浪のま  
 らむと云ハ世末すあり浪のまゝ海に流るるつらむと云ハ世末

新井が  
 新渡のまのた女成し伊勢系をよする

新渡のまのた女成し伊勢系をよする  
 今津の大河を合運道は使はく者國第一中流大湊惣幕の地なり  
 抱女ハ中華ニテハ妓ト云 日本ニテ清盛ノ片ニ妓生妓女ト云 白拍子ノ名ハ是ニヨルノ稱ナリ 書言故事  
 古未有妓漢武始置官妓待軍士之無妻者ト云リ遊女  
 ノ名ハ詩漢有遊女ノ詞ヨリ出タルカナレト詩ノ義  
 ハ唯漢水ノ邊ヲ遊行スル女ヲ云妓婦ノヲニハ非ズ  
 日本ニテハ播州室津ノ遊女ヲ始トスト云或ハ周防  
 國室積ノ妓始ナリト云又朝野群載云江口則觀音爲  
 祖蟹嶋則宮城爲宗神崎則河菰姬爲長者ト然ト何レ  
 ノ代ナルヲ云ズ又或書云吾朝ノ妓ハ何レノ世ヨ  
 リ起シヤ知ズ大抵鳥羽院ノ御宇ニ始シトイヘト後  
 拾遺和歌集ニ遊女宮城ガ歌ヲ載源氏闌屋卷ニハ光  
 源氏住吉ヘ詣玉ヲ行裝ヲ江口神崎ノ遊女船ニ浮テ  
 見奉リシヲ記ス然ハ後一條院比既ニ遊女有シカ又  
 萬葉集ニ遊行婦女ト云モノアリテ遊女ノヤウニモ  
 聞シバ孝謙ノ御宇ニモ有シニヤ又鳥羽院ノ御宇永

久三年洛陽ニ嶋千歳和歌前ト云二人ノ女盛ニ教坊舞ヲナシテ遊女ノ舞是ヨリ始ルト年代廣記ニシルシ前太平記ニ藤原正澄ガ妓女松世ト云ルヲ兄澄友ガ奪シテヲ載ス又一説ニハ鳥羽院ノ御宇通憲入道ガ妾儀禪師ニ鳥帽子水干ヲ著セ太刀ヲ帶セ舞シ又是ヲ男舞ト稱ズ是遊女ノ舞ノ始ナリト源平盛衰記ニ見タリト云按ズルニ新古今集ニカ遊女奥州ト云者ノ歌ヲ載タリト覺ユ何レニモ其始ハ年舊キコソ又傾城ノ號ハ前漢書外戚傳ニ云李延年妹絶美延年侍上酒酣歌曰北方有佳人絶世而獨立顧傾人城再顧傾人國不惜城與國佳人難再得ト此歌ヨリシテ美人ヲ傾城傾國ト云後終ニ妓ノ稱トナル伊勢とあるヲ大神へ參詣スルヲ云内宮ハ天照皇太神ニテ宇治郡御裳濯川ノ上ニ在ス外宮ハ豊受皇太神ニテ度會郡山田原ニ在ス何レモ鎮座ハ牟仁天皇二十六年冬十月ト云

とくぬ〜の〜河原のこの世とあ〜す〜りりる

中 畧 々の業因のふ〜す〜

あはれ子なればハ高〜す〜先〜人〜此〜言〜と〜あ〜く〜う〜れ〜女〜乃〜各〜々〜を〜ナ〜シ〜ト〜一〜葉〜だ〜一〜葉〜だ〜一〜葉〜だ〜ハ〜と〜ら〜ぬ〜う〜ろ〜と〜は〜然〜然〜あ〜け〜あ〜す〜し〜も〜り〜あ〜す〜る〜あ〜者〜の〜あ〜ひ〜く〜者〜略〜は〜と〜と〜ら〜ぬ〜あ〜は〜れ〜す〜し〜す〜れ〜う〜あ〜る〜の〜こ〜は〜せ〜ハ〜別〜ち〜あ〜す〜乃〜子〜の〜さ〜ら〜け〜あ〜り〜業〜因〜ハ〜前〜世〜の〜さ〜ら〜ぬ〜あ〜る〜ワ〜び〜と〜は〜せ〜へ〜り〜あ〜る〜と〜云〜つ〜て〜さ〜ら〜ぬ〜ハ〜の〜と〜拙〜ノ〜字〜ニ〜テ〜巧〜ト〜對〜用〜シ〜俗〜ノ〜下〜手〜ト〜云〜フ〜ナ〜リ〜日〜本〜ノ〜俗〜ニ〜テ〜ハ〜古〜語〜拾〜遺〜ニ〜ヤ〜ツ〜カ〜レ〜ト〜訓〜ジ〜民〜間〜ニ〜モ〜亦〜拙〜者〜ナ〜ド〜、〜連〜神〜乃〜用〜シ〜テ〜多〜ク〜イ〜ヤ〜シ〜ト〜云〜意〜界〜下〜ノ〜辭〜ニ〜用〜コ

か後〜の〜あ〜〜す〜恙〜す〜る〜と〜

林得成此加護方便トアリ恙ノ解ハ前ニシルス

形古と云浦の心旅路の筋波のま〜す〜

く〜ら〜ハ〜思〜初〜と〜云〜川〜の〜名〜を〜成〜中〜姫〜更〜那〜三〜百〜年〜と〜梅〜井〜の〜者〜あり〜魚〜は〜と〜の〜百〜と〜あ〜る〜何〜事〜あ〜お〜の〜格〜と〜ふ〜る〜も〜さ〜ら〜ぬ〜格〜あり〜是〜と

かほれよとすの十八ヶ條ハ下海津乃津遠まゝに官能なりと云ふこと  
或は海の一は海をこぼせしと云ふこと一引たりと云ふこと河原の幅一里まじり  
其申をきかぬも聞きそく種阿高也形古抄書ハ皆御中討水部の急所  
まじり古の湖ハ放生はと云候町乃山も各古事南抄ハ古事とす也  
こは海の辺乃とやひま何よりあひんと海今昔の事ありけり  
おまほ古事おまほの事と由ゆたこの二事すてもとに一語あり海をこぼすの町乃北布  
孫の湖は海布衣のこぼしと云ふ事あり今田とありおまほのこぼすの事あり今昔の事あり  
と加さし一ておん又おん人お半見丸此新おのこぼす今昔の事あり  
有りけし古事より大伴お持の館乃津也也○友人も古事お持の館乃津也  
こは海邊と云ふこととす也一核海ハ海辺桶の名に云ふハ海をこ  
あれハ核海と云ふこととす也核と云ふ事ハ皆能事と云ふ事あり  
核海ハ海邊桶と云ふこととす也核海と云ふ事ハ皆能事と云ふ事あり  
核海ハ海邊桶と云ふこととす也核海と云ふ事ハ皆能事と云ふ事あり  
核海ハ海邊桶と云ふこととす也核海と云ふ事ハ皆能事と云ふ事あり  
核海ハ海邊桶と云ふこととす也核海と云ふ事ハ皆能事と云ふ事あり

ワヤのふりやふ入るはる波海

有りおの海も二我ま一義ハ其波海とす  
海の熱もす  
一美ハ都統と書  
或は海邊桶の事あり  
此也其事と方那と云ふ事あり  
大津は海と云ふ事あり  
乃山は海上へさしや  
わんま村の事あり  
一の大津屋の事あり

卯のふ山よりこの事と云ふ

我中源波歌と云ふ山の事あり  
山は山上へさしや  
わんま村の事あり  
一の大津屋の事あり  
卯のふ山よりこの事と云ふ  
此也其事と方那と云ふ事あり  
大津は海と云ふ事あり  
乃山は海上へさしや  
わんま村の事あり  
一の大津屋の事あり

つゆ八幡まゝり本を新仲大夫彦彦とて平家遠討の  
去と半一矢を細りし一社を今も存す今も存す

小松とつゆ

志のつゆと名や小松のつゆ

小松を金部より八里むり小松中助とて  
左近の地を今も金部村に成りて  
つゆと名を成りしはつゆ

け不太田の神社は信濃守の甲斐の切あり

信濃源氏に属し一社を新仲大夫彦彦とて

中本を新仲大夫彦彦とて

つゆと名を成りしはつゆ

平宗盛ニ随ヒ加州篠原ノ合戦ニ死ス

右田の神社は八幡まゝり小松のつゆ

平宗盛ニ随ヒ加州篠原ノ合戦ニ死ス出生ノ地ハ五高

住丸岡ヨリ十町餘北ニ長畝ト云村アリ此地ニテ生

ト云今直盛屋敷<sup>今竹林トナル</sup>産湯池ナド云蹟アリ篠原

モ今村名トナル加州大聖寺驛ヨリ三里許西北ノ海

邊ナリ村ノ西松林ノ中ニ真盛塚アリ其北入江ノ中

ニ首洗池ノ蹟ト云アリ甲ハ本曹ノ字兜ノ字等ヲ用

ベシ甲ハ鎧ヲ云<sup>音ナリ</sup>和俗甲曹ノニ字ヲ顛倒シテ用

リ草摺ト小手ハ尋常ノ如シ儒當ハ鐵ノノベツケニ  
テ蝴蝶アリ錦ノ帛ハ宗盛ヨリ真盛へ賜ル所ノ赤地  
錦直衣ノ切ナリ本ハ直衣ノ一、ニテ義仲ヨリ奉納  
有シヲイットナク切取シ由今ハ僅ニ縦二尺横一尺  
謙ノコル織文ハ白藤黄ナドニ金ヲ雜テ雲文鳥文ア  
リ義朝ハ六條判官爲義子後白河院時ノ武將ニテ平  
治ノ亂ニ平家ト合戦シテ利アラズ終ニ敗北シ尾州



ニ落<sup>ナ</sup>往<sup>キ</sup>野間内<sup>ウ</sup>海ニテ家人長田庄司忠宗カ爲ニ殺<sup>レ</sup>凡<sup>レ</sup>  
義仲ハ源爲義孫帶刀先<sup>ト</sup>生<sup>テ</sup>義賢子信州木曾ニ住ス因<sup>リ</sup>  
テ木曾冠者ト號ス始平家ヲ攻後賴朝ニ背キ江州粟<sup>ヰ</sup>  
津原ニテ自殺ス樋口次郎名ハ兼光權頭兼遠ガ子今<sup>ハ</sup>  
井四郎兼平ガ兄ニテ義仲ノ臣ノ中四天王ト稱スル<sup>ル</sup>  
モノ一ナリ義仲眞盛ガ調度ヲ當社ヘ奉納セシ副<sup>シ</sup>  
書今ニ社藏トス緣<sup>ハ</sup>紀ハ縁起ト書ベシ其由縁ノ起<sup>リ</sup>ヲ云<sup>フ</sup>  
本日經從因縁起有心相生ト云リ上ニ云副書縁起<sup>ル</sup>  
ニ附録ニ  
シルス

むさんやお甲のつてきりくす

け白ハ詩十月蟋蟀入我牀下とあると故向と  
しつやまをみくさむいお小あふあづんやぶみあ  
おあまをみくさむいお小あふあづんやぶみあ  
いおあまをみくさむいお小あふあづんやぶみあ

<sup>別段</sup>山中の溫泉よりりづら白根の嶽の酒のえり

あむじ中<sup>中</sup>累ふいの法らし二十之市の明れをるを  
あむつ後大慈大坐の像とあま一<sup>一</sup>好ひ

谷<sup>々</sup>とる名付あふりつや 山中の温泉ハ大慈寺乃其の山中  
ろく小ねよりこの里をわたりて

ぬが嶽ハ白山とあふりつや加勢嶽おの嶽とこの村をわたりて  
はなとほるとあふりつや加勢嶽おの嶽とこの村をわたりて  
いのあひたるあふりつや加勢嶽おの嶽とこの村をわたりて  
稱するハ加列子左に岳跡後夜の号をり町と称す云々東  
小社ありつやあふりつや山後夜とあむ又妙夜後夜と云元正天皇聖  
龜二年白山權現出現山開基泰澄大師ナリ修まハ全  
修より四里東の山つて見より白山一嶽と道あり山のおあハ  
城お大跡部お住居おあふりつや山法皇ハ元亨釋書云安  
和帝長子諱師貞寛和二年六月二十一日中夜帝潛出宮  
棄花山寺剃髪法諱入覺和漢三才圖會云華山院<sup>院</sup>即  
位後納<sup>三</sup>妃<sup>ニ</sup>爲<sup>ニ</sup>女御然<sup>ハ</sup>皆<sup>ハ</sup>不得<sup>ク</sup>獻<sup>ル</sup>願<sup>ヲ</sup>聞<sup>ク</sup>恒<sup>ニ</sup>子<sup>ハ</sup>大納言<sup>ノ</sup>容兒  
絶<sup>セ</sup>納<sup>テ</sup>之<sup>ヲ</sup>爲<sup>ル</sup>妃<sup>ト</sup>寵<sup>ヲ</sup>遇<sup>フ</sup>甚<sup>ク</sup>厚<sup>ク</sup>弘<sup>メ</sup>徽<sup>殿</sup>女御是<sup>也</sup>無<sup>幾</sup>日<sup>ノ</sup>寛<sup>和</sup>元  
年六月

桓子薨去焉帝不堪哀愁自此怠朝政生棄世志洛飾号  
入覺在在十九年後行五畿内近國還洛ト云々而わぬ巡  
狩ト云々山城大和の和系持津紀伊丹波丹後播磨山は必  
十一ヶ所の歌者云々場と巡る云々云々此列那多山子始り此列  
答ぬふ終る和漢三才圖會云拾芥抄雖有二十三所以  
六角堂爲初以那智堂二十一而與今次第不同ト又云  
相傳華山法皇以有靈夢長徳元年三月十七日始詣於  
熊野六月朔日至谷汲以此爲順禮之權輿按法皇順禮  
之事不載于史傳唯謂後内近國行旅地此ト云リ○按ずるは若  
古ハ性まをい初樹ト云々孫の山ありぬ入る一里をのり山  
よりゆき海のうらむるまぬありなる親きまは心なま  
ありぬを海のうらむる自然石と刻て竹とまれば若者すなぐ丹書  
と刻れりいとまあざかふふいとまあざかふふいとまあざかふふ  
まは陸橋ありと上り山あり傘建のまをまはさしと入り尺  
波を及舞の遊里山をまわり下り水村画がぐく徒孫の  
地ありふの南ハニテ幸ありトと那谷まをまはさしと入り尺  
五院と云い可也  
まをまはさしと入り尺

石山のふより白ー秋の風

飛去の風まをまはさしと入り尺  
石山よりと入り尺

浪々水子流すさい功あり明々次と云  
浪々水子流すさい功あり明々次と云

路ハユアヒト訓ズゆとつりかきくまのハ者馬乃き強が  
とありハ松列者流ありと云々世人も云々云々後す

山のゆ葉ハ事ありぬの句

菊の可已疾延年西京雜記云九月九日佩  
茱萸食餌飲菊花酒令人長壽張鼎志云茱  
萸長壽其年七百餘歲トありはるの法と句  
ひととかくハヤドヤサハト云々後す

田舎抄下

三十一

枕妖のうらみはちりあけりはる乃あきる公  
面外やぬらふあけり所縁なりはる

あやどとすまおハク采之命と云中流に与ふと云采

のむつーなるあありー此風程と云一めくわと

流にほく貞流の門人と云川つてすまと云る功名

乃好は一村判詞の料と清ずと云中世の物のまゝ  
者のまほり久

采とあふと云門人とのまほりと云采と云采と云采と云

はると云り風程は清の二義乃うち好二義之義ハ賦は良風

程頌と云此と云此は良の二義ハると云好と云好と云好と云

の二義ハ一采の二義ハると云好ハ其佳と程と云るの二義ハ

好ハ常子好ハ良風程の利ハ風程と云の二義ハるの二義ハ

詩程連他のまぐい風程はることと云る風程と云采と云采

と風程と云采と云判詞の料と云采と云采と云采と云采と云

伊勢の園と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云

川の名とありゆりハ申緒申縁所由所縁のまど長治と采  
あの内なる

羽のユヘト訓ス修と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云

わのゆと云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云

詩雙鳥俱北飛下鳥獨南翔子當留此館我當歸故郷ト雙鳥ハ雙鳥は程と云  
前漢書蘇武別李陵

此意ヲ取ルナリ隻ハ音職ニテ説文鳥一枚也ト云平

字通凡物不兩曰隻ト俗ノカタクト云一ニテ雙ノ字トハ音義別ナリ

大聖持の城外全留寺と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云

大聖持の城外全留寺と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云

一枚の海と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云

塩竹林之遊亦預其末自嵇生天阮公ト以來為時所羈

繼今日視之雖近近邈邈 凡寮凡寮の計計心心 鐘板鐘板の

了了食堂食堂の入入 鐘板鐘板ハ又雲板雲板凡凡云云金銅金銅ニテ作ル形形ト

云類云類ナリ食堂食堂ハ僧ノ食事食事ヲナス處ノ名名 早卒早卒ハ

早卒早卒ハ又倉卒倉卒凡凡書書本字本字ハ憚憚粹粹ニテ心ノアワタアワタハ

キヲ云僧ハ釋氏釋氏要覽要覽云梵語具具云僧伽僧伽唐言衆唐言衆今略稱今略稱

僧也

庭掃庭掃了了也也ヤヤチチリリ交交柳柳

おは極白ハ掃掃らるる世説補世説補云郭林宗郭林宗每每行宿行宿  
逆放逆放軌軌自灑掃自灑掃及及明去明去後人至後人至見之見之曰曰此必此必  
郭有道郭有道昨宿處也昨宿處也釋氏要覽釋氏要覽云佛自執佛自執篋篋欲欲  
掃佛言掃佛言掃地有掃地有五勝利是等五勝利是等ヨリ出ル作意

ナルベ

キニヤ

吉崎吉崎の入江入江とみよ梅梅一々一々汐越汐越の松松と石石也

吉崎ハ大重大重とある本の右右の宮宮道道をよりありまふは

葉葉店店思思傍傍とぬ入入る南南一一ツツモ町モ町をうりかた茂茂おの枝

いさりの葉葉は任任あるの枝枝前前吉崎吉崎の南南一一ツツモ町モ町をうりかた茂茂おの枝

花花梅梅の妻妻とて名名ありなり花花乃乃一一ツツモ町モ町をうりかた茂茂おの枝

入入江江めて北北と舟舟の浦浦とていふ南南以以蓮蓮の浦浦とていふ名名也也

いよいよ海海邊邊の浦浦とていふ南南以以蓮蓮の浦浦とていふ名名也也

汐越汐越村村とていふ砂山砂山とていふ所所也也ババ一一ツツモ町モ町をうりかた茂茂おの枝

廣廣く古古れ多多一一ツツモ町モ町をうりかた茂茂おの枝

わねあり枝枝葉葉をさむる一一ツツモ町モ町をうりかた茂茂おの枝

あつて類類稀稀なる傍傍景景あり

ねむきつゝ元々けつとてこらる

月とまけつれぬけつゝの雲

けり世人多くありの縁とて人にも付く  
のくい地しつる水もそのあり山家集あま其か  
の言集あま其言ふ一因て旁く付くは是如  
上人は深きもの一徳宗の位皆より今是如  
山より水海と歸む小は  
ふれ風情よく叶なり

夕月の指とてつるのど

夕月ハ莊子ニ所謂枝於  
手者樹無用之指也ノ

語ヨリ出タリ  
枝ハ六指ゾ云

丸岡天龍寺の長老

丸岡ハ成おの心坂井初あり又其塔ト  
あり天むちハ釋宗より福井あり

者老年之徳名長老主峰金剛經註云長老徳長年老也

祖庭事苑云今釋宗住  
持之者必呼長老

又重海の小枝とてつるの  
北

ハ加列合派は住一ノ魔と老とれおのつ人  
ましく風俗漁者あるものそま流人は趣

五十町山に入て永平寺と礼は道元禪師

の法寺也邦機お里と遊くつる山陰と

のこりあつる貴きやうのや 永平寺ハ越前  
國志比村ニ立

福井ヨリ三里 吉祥山ト號ス後深草院建長五年ノ草創北

條時頼ノ修願ニテ曹洞禪宗ノ本山ナリコハニ五十

町山ニ入トハ此寺領ノ入口ヨリ山中ノ寺ニテノ行

程ヲ云ニハ登ラス道元禪師姓ハ源氏京師人宋ニ入テ天

童如淨禪師ニ謁シ曹洞宗ヲ傳ト云邦機お里とハ機

ハ畿ノ字ノ誤ニテ邦畿ハ帝都ノ稱詩邦畿千里維民

所止ト云是ナリ貴きやうのとおはつる先考也を

伊之

三









卷ニハ進ノ字ヲ用工伊勢物語ニ翁きむ人かその名と  
源一も翁ス、ミト云心ナリ又躬恒ノ秘藏抄ニハ上  
久ト書テ和訓サビト讀セ昔ヲ  
慕心モアリト註セリト云リ  
托切二世の上人中  
泥滓とかげのまじり中  
ういど托切の砂持とちり

遊行宗ハ本号時宗ト云一遍上人ヲ元祖トス  
熊野權現ノ告ニ依テ諸國ヲ遊行シ決定往生  
六十萬人ノ札ヲ衆人ニ與、故ニ俗遊行宗ト稱ズ本寺  
ハ相州藤澤驛ニアリテ藤澤山清淨光寺ト號シ百石  
ヲ領ス此宗儀ハ巡國ノ間ヲ以テ住職トシ藤澤ノ本  
山上人ヲ隱居トス二世上人ハ一遍ノ弟子ニテ他阿  
彌陀佛ト云傳記未詳是ヨリシテ代代遊行住職ノ僧ヲ他  
阿上人ト稱ズ上人トハ釋氏要覽云古師云内有智德  
外有勝行在人之上三名上人ト又車來説ニ日本ニテ僧  
綱ヲ賜ニ法印法眼法橋ノ三位アリ此ウチニテ初位  
法橋位ノ僧ヲ上人ト稱ズ遊行ハ禁庭ニテ唯遊行本  
道心ト口宣アしノ位階ノ沙汰ナシ今上人ト呼ハ

下泷ノ稱號ノミ然モ參内ノ式ハ甚嚴重ナリト云リ  
渟ハ宇彙水止也トアリ畀俗ノ云井コリノコナリ遊  
行の砂持ハ其後代トテ上人回心乃時妙あらず此後より  
砂石とをび社既の前後をみる事今もみえり  
形施ふ一さるをみ此社が橋つの外も本殿と多くあり  
系指の案若きさるを記のとけ本殿より記りし橋つの内よ  
入托切の末の砂石とぬむ  
由一糸と記物の線と憶ふを也

十のちまきこがの区  
すず原の小貝むらりと種の渚よ、舟と芝原

すず原のや貝ハ仮名形語多りのやまうとすだ一糸綴柄とつるや  
あく貝のまゝ乃赤き事ほこや其後橋のや一とつるや  
すず原ハ十寸指とすそのの線乃赤きを云はす原乃其詳是ゆり  
渚よむらりむらり貝ハ皆うりや貝あく貝と云朱貝貝山椒貝  
かどつるまの赤き貝とやゆり貝と云これゆり貝はむらり  
ゆりゆり乃小貝むらりふるともつる原ともゆりゆりゆり  
ゆりゆりハ此そこのゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
渚と云義契其入海乃末あり海のゆりあり  
天原河素と

ちよもの畧僕あやしくあやうのやまく 天下のおそろハ  
今も教笑の剛

ふ多し、ちゆひ今宛名大廻とつゆもの、祖父程のを處一おと  
使ひよりしと云傳ふ僕ハ字畫給事者也トアリ俗ノハッ使ヒ

ノ者ト云類ニテ召使ヒ  
供ノ男ナドノコナリ 侘一と法ふちあり中夕

がりのちび一とさ燕一子一端一り 法花寺ハ日蓮宗諸寺  
を云りと法を宗と云

天台宗中なる多あり今日蓮派乃名と云然ハ古俗能私絲るを夕  
がりのさむ一らとは秋の中よ夢の深床を絲する可和蓮子一後  
和言子一夕阿り一人一そ一子一良蓮一の一分  
あ梨何生も甘ふ志教可ぬれがまを考す

らむ一とや源座よ一のち一る一源一の一故

江摩ハ橋列乃名所みく海をちり今西江中ナ使東  
源摩源江摩地屋と云マケ村と旅忠夜のう一いあや  
せも一く一は一海一浦一と一ハ一む一と一か一ふ一其一名一以一ち一る  
と阿り古歌もも多く閑寂農社とのぐまり

森通も此みちくまぐ心むらひ一ま一の一園一と

使よ弱よ壺す一く一き一く一大垣の店よ入む曾

うらも伊勢より其里念ヒ越人をもるととをせ一す

如行が家子入る事お前川子前口父子一お

ち一と一人一は一秋一さ一ひ一て一蘇一生一乃一の一子一

あめのど一く一思一悦一び一加一川一の一は一縁一の一こ一は一

う一さ一と一い一ふ一ぶ一屋一あ一ぶ一る一ふ一あ一丹一ふ一は一あ一身一ハ一伊

勢の遷一言一お一の一子一と又一あ一ふ一の一り一て 森通ハ御女一ま一ま一  
く一語一通一と一き一り一ま

法花寺一ハ一一旦一之一名一の一境一男一あり一と一若一麻一志一く一僧一と一り一心一人  
と一の一あ一り一越一人一也一初一口一赤一川一也一皆一若一の一弟一子一あ一く一越一人一也一尾一列一名



諺のよきしころあつてつるまきつわり  
 こみぢりあつてあつてつるまきつわり  
 とせしこれ人なるといふ細道のかきつるまきつわり  
 へきや志うれをたふす名所を志すつるまきつわり  
 ききみしる大なるはすき人建おかまきつわり  
 おひしころあつてあつてつるまきつわり

蝶爰幻阿弥陀佛



契の細道爰茲抄附録追出末

安永七年戊仲殊

蕉門書肆

- 江戸
- 山崎 金兵衛
- 大坂
- 河内屋茂兵衛
- 京都
- 井筒屋庄兵衛
- 橘屋治兵衛

三母千五

